

<p style="text-align: center;">【経験発表】</p> <p style="text-align: center;">ソフトウェアの危険予知トレーニングによる失敗を共有できる風土の構築</p>
<p style="text-align: center;">Construction of climate sharing similar failure by the Kiken Yochi Training of the software</p>
<p style="text-align: center;">良知 敦 a-rachi@ts, jp, nec. com NEC アクセステクニカ株式会社 開発本部ソフトウェア開発部</p>
<p>発表要旨：</p> <p>皆さんの職場では、類似した過去の不具合の再発で、「何度同じことを繰り返す気だ」などと上司やお客様に怒鳴られたことはありませんか？</p> <p>昨年の SPI Japan2011 でヤマハ株式会社の中村直文氏から「開発 KYT(危険予知トレーニング)によるトラブルの未然防止活動」の発表がありました。この活動は、交通の危険予知トレーニング(KYT)を応用したもので、ある場面(プロセス)に潜む危険をみんなでディスカッションし、これによりお互いの危険予知能力を高め、その結果同じ失敗や同類の失敗を防止しようとするものです。</p> <p>直感的に「この活動はいい、心に響く」と思ったのですが、新しいことを組織に取り入れようとすると、何らかの障壁が必ずあります。そこでソフトウェア開発を支える 3 要素のうち、「<u>技術</u>」に KYT を置き、「<u>人</u>」「<u>プロセス</u>」に着目した対策を考えました。</p> <p>① お題の作り方 ② ディスカッションをしやすくするための工夫 ③ 出題から回答の集計まで運用方法、</p> <p>しかし、目標の参加率 9 割とお題の評価 3 点以上を達成できませんでした。そこで中村直文氏にお題の作り方のアドバイスをいただくとともに、仕事の基本である「<u>目配り</u>」「<u>気配り</u>」「<u>心配り</u>」を利かせることで、目標をやっと達成することができました。</p> <p>これら工夫と KYT が、皆様の職場でも何かの役に立てばと思い、ご紹介させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>キーワード：</p> <p>リスクマネジメント、未然防止、危険予知トレーニング</p>
<p>想定している聴衆</p> <p>類似の失敗の繰り返しをご経験されている組織の方、SEPG</p>
<p>発表者の紹介（全角 100 文字）：</p> <p>SW 開発→コールセンター→自治体営業などを経験して SW 開発に戻り、現在 SEPG & SQA の業務に従事しています。社外活動としては、東海ソフトウェア開発プロセス研究会や TEF 東海のメトリクス勉強会などに参加しています。</p>